家庭教育つうしん

令和７年３月発行第９２号

発行責任者：士別市教育委員会社会教育課
（電話　26-7308）
メール：shakaikyouikuka@city.shibetsu.lg.jp
作 成 者：士別市家庭教育推進員 共同作成

親の役割･支援について

子どもとの関わり方で意識するポイントとして、ありのままの姿を認めること以外にも、見守りながら心の変化を見つけ、変化に合わせて仕掛けていくといった関わりが重要になっていきます。また、保護者は自分の育児のやり方に自信が持てなかったり、子どもの成長について悩みを抱えていたりするかもしれませんので、保護者の気持ちに寄り添うサポートが求められています。

そこで今月は、「親の役割・支援」をテーマに、家庭教育推進員からの情報をお届けします。

「寄り添い、見守り、共に成長する子育て」

小学生の頃は、身の回りのことを手伝ってあげたり、勉強を教えてあげたりすることが多かったかもしれません。中学生になると、子どもは自我が芽生え、親から自立しようとし始めます。親としては、子どもの成長を喜びつつも、どのように接すれば良いのか悩むこともあるでしょう。

そこで、大切にしてほしいことは「子どもの気持ちに寄り添い、自主性を尊重すること」です。

子どもは成長段階で様々な悩みや不安を抱えます。親は、子どもの話をじっくりと聞き、気持ちに共感することが大切です。否定や説教をするのではなく、まず寄り添う姿勢を示しましょう。また、子どもの自主性を尊重し、過干渉にならないように気をつけましょう。子どもが決めたことには、見守る姿勢が大切です。失敗しても責めずに、一緒に考えるようにしましょう。

子どもの気持ちに寄り添い、自主性を尊重することで、子どもは安心感を覚え、自己肯定感を高め、自分で考え行動する力を身につけることができます。

子育ては、大変なこともありますが、子どもの成長を間近で見ることができる貴重な時間でもあります。焦らず、子どものペースに合わせて、ゆっくりと成長を見守りましょう。

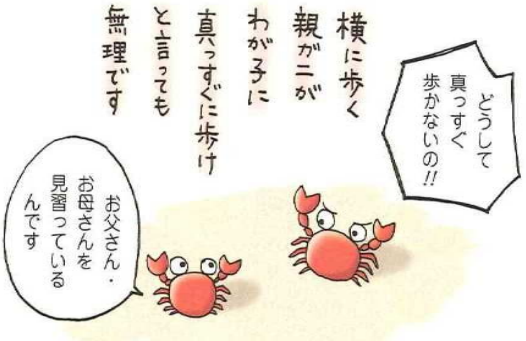
（温根別小学校教頭：重森推進員）

「子育てで大切にするべきこと」

子どもが日々意欲的に生き、元気に成長していくためには、親としてどんなことを意識して子育てに取り組めばよいでしょうか。自分の子育ての仕方は正しいのかと不安になることもあると思います。

私たちは、どうしても子どもたちのできないところ、苦手なところに目がいき、それができることを願って育児をしがちです。それは、わが子への期待が大きいからこそですが、あまりありがたくないですよね。それよりも、子どもがちょっとでもできていること、**子どもの良い面**を見つけ、**ありのままの姿を肯定的に受け止めて**あげる、そして、良い面をもっと伸ばしていけるように応援していく、その方が子どもにとってありがたいことです。

このことは、最近の脳科学でも実証されています。そんなことは当然と思えますが、これを実践することは実際には難しい…それが親の実感だと思います。まずは、お子さんの良い面を１つでも多く見つけてみましょう。



マンガ・イラストは「子育てハッピーアドバイス」シリーズ(１万年堂出版発行)より

（あさひ認定こども園所長：宮田推進員）

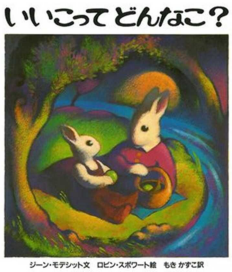
「親は子の鑑？子は親の鑑？」

厳しい寒さも終わりを告げ、暖かな春の日差しが感じられるようになりました。卒業・進級シーズンを迎えて、この１年のお子さんの成長に驚きや喜びで胸がいっぱいの頃ではないでしょうか。幼稚園でも子どもたちが何事にも自信を持って誇らしげに過ごす姿に思わず目が細くなる毎日です。

さて、冒頭のタイトルにもあるように、皆さんはどちらの言葉に馴染みがありますでしょうか。いずれも親子関係を表していますが、「親は子の鑑」というのは、昔から親は子どものお手本となる存在であると同時に、親としての責任の道しるべとなる言葉であるように感じます。また、「子は親の鑑」はアメリカの教育学者が書かれた詩の一説であり、子どもは親の行動を映すものと言われています。私は新学期に保護者に対して「どんなことがあっても朝はニコニコ笑顔で送り出して下さい。」とお願いをしています。親のポジティブな姿勢や態度は子どもたちの１日に大きな影響があることを重々知っているからです。「子は親の鑑」であるならば、大人である私たちは、子どもたちに良い環境を与えることが役割かと思います。家庭教育は日々のちょっとした配慮から成るものと信じています。さぁ、今日も心身明るく１日をスタートさせましょう。

（士別幼稚園園長：谷推進員）

「親の役割・支援におすすめ本」



「いいこってどんなこ？」
冨山房（1994.10）　ジーン・モデシット文　ロビン・スポワート絵

親として一番大事な役割は、お子さんをいっぱいの愛情で包み込んであげることです。愛されているという安心感は、お子さんの精神的な安定や信頼につながり、心豊かな成長を支えてくれます。お母さんに好かれているのか不安なうさぎぼうやは、ある日お母さんに質問します。一つ一つ、愛情たっぷりに丁寧に答えてくれる姿は、ありのまま愛されることの喜びを伝えてくれます。

わが子に「ヤバい」と言わせない　親の語彙力
KADOKAWA（2023.9）　矢野　耕平　著

日々の生活のなかで子どもは、周りの誰よりも親の言葉を聞いて学んでいます。学習面だけでなく、円滑なコミュニケーションをとっていくためにも、「言葉の引き出し」は重要です。何気なく雰囲気で使っていたけど実は誤用という言葉も、インターネット上や日常にあふれかえっています。思いを伝える力、感じ取る力の基礎となる「語彙力」を自身が楽しく学べる大人のドリルのような１冊です。

女中がいた昭和
河出書房新社（2012.2）　小泉　和子　著

家庭生活を守っていくことも親の大事な役割ですが、日々の育児家事の負担は大きく、悩みは尽きないものです。これだけ暮らしが便利になっても大変な家事、一体どうやって昔の人はこなしていたのでしょう？かつて、日本の家庭には当たり前に家事負担を一手に引き受ける「女中（メイド）」が存在していました。今となっては考えられないような彼女たちの働きや暮らしの姿を見て、あなたはどう感じますか。

お知らせ

中学生までの子育て世帯の
サフォークポイントが2倍になる

子育てポイントサービスは ３月末で終了します

◇問合せ　サフォークスタンプ協同組合　☎23-2144
市こども・子育て応援課　☎26-7759

これらの本のほかにも、関連する図書を貸し出ししています。ぜひ図書館へお越しください。

（市立士別図書館司書：安藤推進員）